

やまがたコミュニティ新聞 2012年1月27日に掲載!

続・しと口やまがた再発見

28 蔵王のヒュッテ・ヤレン

山形歴史たても
研究会 小林 和彦 さん



「発電所を建設して出来た電気はみんな大都会に持って行く、地元は先祖代々共に暮らして来た水を利用しておこした電気であるに拘らず何の恩恵にも浴さない。現在でも電源地帯で、昔作らの石油ランプを唯一の灯火としている村落は数多ある」

まるで今回の原発事故の悲劇の本質を喝破しているような文章は昭和27年、ある雑誌に掲載されたものです。寄稿したのは写真

の山荘を蔵王に建てた人物で、夫人の正子さんとともに高名な白洲次郎氏です。

白洲氏は昭和26年から34年まで東北電力会長を務め、サンフランシスコ講和会議の全権団顧問となり平和条約調印にも臨んでいます。

「ヤレン」とは白洲氏が「スキーとはなかなかひゅっとやれんものだ」と語ったことからドイツ語風に名づけられたとか。ここにも彼の型破りな性格が表れています。

現在、内部は見学できませんが、蔵王の新たな観光資源として期待されており、2月26日に内部見学会と保存・活用をめざすトークイベントが開かれます。

